

平成29年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立峰山中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>【教育目標】 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ生徒の育成</p> <p>【めざす学校像】 ・生徒にとっては魅力ある学校 ・家庭、地域社会にとっては開かれた学校</p> <p>【めざす生徒像】 ・意欲を持って自ら学ぶ生徒 ・思いやりのある生徒 ・進んで心と体を鍛える生徒</p> <p>【重点課題】 ・確かな学力の充実・向上 ・豊かな人間性の育成 ・信頼を高める学校づくり</p>	<p>【小中一貫教育完全実施】 ○小中一貫教育における学習指導の取組を受け、校内授業研究会を実施し授業力の向上を図る研修ができた。</p> <p>【確かな学力の育成】 ○各種テスト結果をもとに本校の学力実態を把握し、学力の回復と充実の為の具体的な手立てが実施できた。 △家庭学習頑張り週間は実施できたが、年間を通しての家庭学習の指導が不十分であり改善を要する。</p> <p>【豊かな心の育成】 ○全校集会での集合解散の状況や集会時の様子から、生徒の落ち着きを感じられる。今後も生徒の主體的な活動を組織的に進める事が大切である。 △不登校生徒や不登校傾向生徒の未然防止の為、初期段階での組織的な取組が必要である。</p> <p>【信頼を高める学校づくり】 ○学校だより、ホームページでの情報発信等広く市民へ情報を発信する事ができた。</p>	<p>【小中一貫教育の推進】 ・生徒一人一人が自己肯定感を持ち、生き生きと活動する学園を目指す。 ・小中連携の取組内容を学園内全教職員が共通理解し、組織的・計画的に実践する。</p> <p>【確かな学力の育成】 ・目標と指導と評価の一体化を進める。 ・生徒指導の3機能を生かした授業実践を進める。 ・家庭学習習慣の確立を図る。</p> <p>【豊かな心の育成】 ・人権意識及び規範意識の醸成を図る。 ・不登校やいじめの未然防止のための組織的計画的な取組を進める。 ・豊かな食生活を目指し食育を推進する。</p> <p>【信頼を高める学校づくり】 ・学校・地域・家庭の連携を一層強化する。 ・家庭の教育力を高めるための活動を進める。</p>	<p>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p> <p>【小中一貫教育の推進】 ・生徒一人一人が自己肯定感を持ち、生き生きと活動する学園を目指す。 ・小中連携の取組内容を学園内全教職員が共通理解し、組織的・計画的に実践する。</p> <p>【確かな学力の育成】 ・目標と指導と評価の一体化を進める。 ・生徒指導の3機能を生かした授業実践を進める。 ・家庭学習習慣の確立を図る。</p> <p>【豊かな心の育成】 ・人権意識及び規範意識の醸成を図る。 ・不登校やいじめの未然防止のための組織的計画的な取組を進める。 ・豊かな食生活を目指し食育を推進する。</p> <p>【信頼を高める学校づくり】 ・学校・地域・家庭の連携を一層強化する。 ・家庭の教育力を高めるための活動を進める。</p>		
<p>本市の小中一貫教育の</p>	<p>教育課程 学習指導</p> <p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導方法の工夫改善により学力向上と学習意欲の向上を図る。 学習規律を確立させるとともに、家庭学習の充実を図る。 	<p>具体的方策</p> <ul style="list-style-type: none"> 「わかる」「できる」「できる」授業を推進するため小中で一貫した学習指導方法を研究する。 5・6年担任と数学科教員が協働して総括テストを作成し、目標と指導と評価の一体化を進める。 各種テスト結果の分析に基づき、授業の在り方や補習・補充学習、小テストや繰り返し学習等の工夫を行う。 週末課題や日々の宿題の充実を図り、家庭学習充実の取組を保護者と連携して取り組む。 少人数、T T授業(数学・英語)を効果的に実施する。 	<p>成果と課題(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小中一貫教育の重点を「行動連携」から「授業づくり」にシフトし、どの教科においても、生徒同士をつなぎながら共に学びを深めるような手立てが組まれるようになってきている。 ○各種学力調査において、全国・府平均を上回る結果を出している。また、調査結果を分析し、その後の授業改善に生かされた。 ○放課後補習、長期休業中の学習会、峰山学園家庭学習ががんばり週間等の取組を充実させることができた。 		

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の内面に迫る指導を行う ・生徒の実態を早期に把握し、不登校の解消と未然防止を図る。 ・生徒の主体的な取組を進め自己肯定感を育てる。 ・関係諸機関との連携を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題事象の未然防止、規範意識の醸成のため、生徒とのふれあいの時間を確保し、毎週の生徒指導部会及び学年会で情報交流し全教職員で指導する。 ・教育相談部会やケース会議で生徒の実態を把握・分析し、不登校の解消と未然防止に向け、具体的な方針を立て実践する。 ・全校集会・学年集会の実施や、生徒会活動において、生徒の主体的な活動を組織していく。 ・子ども未来課・児童相談所等関係機関と連携を図る。 ・保健学習、保健指導を計画的に進める。また、道徳・総合的な学習・特別活動との関連を図る。 ・教科等との関連を図った食に関する指導を推進する。 ・交通安全指導を徹底する。(交通教室、PTAとの連携) ・避難訓練(地震・火災・不審者侵入)を実施し安全意識を高める。 ・積極的に部活動に取り組みさせるための指導を進める。 ・懇談会等で教育内容、生徒の活動等を丁寧に保護者に伝える。 ・ボランティア活動を通して地域貢献の意識を高める。 ・ホームページ、学校便り、学級便り等を用い、積極的に生徒の良い面を地域に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校全体が落ち着いており、問題事象は大幅に減少している。 ○△不登校生徒の出現率は、1月末現在で1.4%と昨年度より0.9ポイント改善している。しかし、家庭的状況が厳しく、不登校の解消には至っていない。今後重要課題として取り組む必要がある。 ○「輝きの峰中集会」を持ち、生徒の良いところを全校に返し、前向きに取り組む雰囲気を醸成できた。 ○専門機関と連携し、適宜ケース会議を開催できた。
健康(体育)・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・保健教育を系統的に進める。 ・食育の推進を図る。 ・安全意識の向上を図る。 ・体力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健学習、保健指導を計画的に進める。また、道徳・総合的な学習・特別活動との関連を図る。 ・教科等との関連を図った食に関する指導を推進する。 ・交通安全指導を徹底する。(交通教室、PTAとの連携) ・避難訓練(地震・火災・不審者侵入)を実施し安全意識を高める。 ・積極的に部活動に取り組みさせるための指導を進める。 ・懇談会等で教育内容、生徒の活動等を丁寧に保護者に伝える。 ・ボランティア活動を通して地域貢献の意識を高める。 ・ホームページ、学校便り、学級便り等を用い、積極的に生徒の良い面を地域に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> △○今年度、自転車による交通事故が9件(2.23現在)と多発した。3学期より、自転車乗車振り返りシートの取組を始め、安全運転の意識向上を図った。 ○計画的に避難訓練を実施し、教職員・生徒の危機対応意識を向上させることができた。 ○部活動や丹プロ陸上、駅伝大会等で、素晴らしい成績を取めることができ、学校全体が活気づいた。
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や保護者に積極的な情報を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や保護者に積極的な情報を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○飛天ボランティアに70人、PTA地域清掃ボランティアに100人の参加があり、地域に貢献しようとする意識の高まりがみられる。校内の清掃ボランティアへの参加者も増加傾向にある。 ○△ホームページや学校便り等で積極的に生徒の活動の様子を発信した。保護者から「もっとホームページを更新してほしい」との要望があり、改善が必要である。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育を計画的に推進する。 ・説明会・進路相談の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動に基づきキャリア意識の向上と啓発を進める。 ・年間計画に基づいた系統的な進路指導を進める。 ・保護者、生徒向けの進路説明会を早期から行う。 ・二者、三者面談を早期に開催し希望進路実現を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年度当初の計画通りキャリア教育を実施できた。その成果の一端を立志式で広く地域に公開した。 ○保護者面談、説明会等を丁寧に、保護者との信頼関係づくりに努めた。結果的に、保護者アンケートの全項目で、肯定的評価が昨年度を上回った。
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> 1 小中一貫教育という手法を用い、新学習指導要領で提起された「主体的、対話的で深い学び」に近づけるよう、さらに授業改善を進める。来年度は、英語科を中心に、峰山高等学校との連携も強化する。 2 不登校の解消と未然防止に向け、今年度成果のあった方策(①管理職の教育相談部会への参加、②教育相談部会への心の教室相談員・スクールカウンセラー等の参加、③こめなケース会議の開催)も含め、総力を結集して組織的に取り組む。 		

平成29年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立大宮中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
1	夢や希望をもって未来を切り拓く能力と実行力の育成	○教育活動全体を通して話し合い活動や討論活動を積極的に導入し言語活動の充実を意識した学校運営ができた。	○教育活動全体を通して話し合い活動や討論活動を積極的に導入し言語活動の充実を意識した学校運営ができた。	1	質の高い学力の育成に向けた、学びの基礎力の徹底による学習規律・習慣の確立と言語の力の育成に向けた討論活動を充実させる。
2	学習意欲を高める授業の充実と家庭学習の定着	○校内研修を充実させるために、人権教育をはじめ道徳教育や特別支援教育など外部研修を伝達させ研究を推進し共通理解が図られた。	○校内研修を充実させるために、人権教育をはじめ道徳教育や特別支援教育など外部研修を伝達させ研究を推進し共通理解が図られた。	2	三年間を見通した進路学習の充実と目的意識を高め自らの進路を切り拓く能力を育成する。
3	健康な体と豊かな心の教育の充実	○授業についての生徒評価は、「わかりやすい」が26年度82%、27年度86%、28年度85%と継続して高い。また、総合的に見て「よい学校だ」と思うについて、26年度86%、27年度83%、28年度88%と高い数値で安定している。	○授業についての生徒評価は、「わかりやすい」が26年度82%、27年度86%、28年度85%と継続して高い。また、総合的に見て「よい学校だ」と思うについて、26年度86%、27年度83%、28年度88%と高い数値で安定している。	3	組織的な生徒指導を展開し、生徒指導の三機能を充実させる。また、分掌間の連携を強め、いじめや不登校生徒の未然防止と早期発見・早期対応に努める。
4	信頼される学校づくり			4	健康や体力の向上に努め、心豊かな人間性を育む。
5	教職員の資質能力の向上		△学力の定着・向上に向け、授業と連動させた家庭学習の取組や少人数授業を生かした授業改善の取組を推進していく。	5	人権尊重を培う教育の推進と教職員の指導力向上に向けた研修の充実を図る。
6				6	小中一貫教育をはじめとする、校種間連携の推進に努める。
評価項目	重点目標	具体的方策		成果と課題(自己評価)	
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・小中の接続期(Ⅱ期)の指導方法の開発(小中接続を充実させるための授業づくり) ・丹後学の研究と推進 ・授業規律と家庭学習習慣の確立 ・学力の実態把握と学ぶ意欲の向上 ・思考力、判断力、表現力の育成(言語の力、討論活動) ・人権教育と集団の育成を基盤とした学校生活の安定化と活性化 ・指導方法の研究と改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・中小学校の教員による協同の授業研究と合同研修会を実施し、授業改善につなげる。(生徒指導の三機能を生かした授業づくりと学びの基礎力の徹底) ・地域社会の人々と連携し、自己の生き方・あり方について深く考えさせる。 ・1日1ページ学習・週末課題を提示する。 ・学校評価や生徒アンケート等を検証し、改善に向けた具体的方策を立てる。 ・全教科を通して言語の力を育成するための授業づくり ・生徒会活動の充実を図り主体性を育むとともに、集会や特別活動を通して、聞く、考える、話し合うことを重視する。 ・指導力の向上を図る研修を充実させる。 		<ul style="list-style-type: none"> ○小中合同授業研究会では、各校の学力実態や研究実践を学び自校の取組に生かすことができた。 ○総合的な学習の時間は、丹後学に重点を置くとともにキャリア教育の視点に立ち、自ら課題を見つけて主体的に考えさせることができた。 ○言語活動の充実に向け、教育活動全体を通し、話し合い活動や討論活動を積極的に導入し、思考力・判断力・表現力等の育成に努めた。 ○授業の生徒評価は、「わかりやすい」、27年度86%、28年度85%、29年度89%と継続して高い。 △全国学テや府学テは各学年とも平均点は上回っているものの、基礎学力に課題を要する生徒が各学年に約15%見られることから、今後も学習支援を積極的に進めていく必要がある。 	
<p>本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として</p>					

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・小中の生指合同部会の開催 ・組織的な生徒指導体制の確立と規範意識の向上 ・学級経営の充実と好ましい人間関係の育成 ・不登校生徒の未然防止と早期対応、早期解決 ・いじめ防止の徹底と人権感覚の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同会により、各校の事例報告と指導について研修する。(情報機器の実態把握、正しい使い方を含む) ・指導体制を確立させ、きめ細かな指導と具体的な方針策による迅速な対応を行う。 ・生徒アンケートを実施し、教育相談活動を丁寧に行う。 ・定期的に生徒指導部と合同で教育相談部会を開催し、学校体制として具体的な動きを行う。 ・いじめを見逃さない人権感覚と生徒との信頼関係の構築を図る。全校でいじめゼロ宣言の取組を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各校の実践事例の課題を整理し、児童生徒の主体的活動や保護者対応等、一致した方向性が見いだせた。 ○生徒指導と教育相談を一体化させ、機能化が図れた。 ○学校環境適応感診断を実施し、学校や家庭がもたらす影響を分析し、個々の生徒の指導に役立てた。 ○生徒の規範意識の高揚、人権の尊重、自己有用感を培う取組は、生徒同士が「協力し合い助け合えた」27年度92%、28年度94%、29年度96%と上昇し、安定した高い数値である。 ○いじめ事象における未解消件数は現在ない。 △学年が上がるにつれて不登校生徒が増加傾向にあり小中連携や関係機関等、組織的な取組を強化する。
健康(体育)・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・安全教育の充実(幼稚園との連携訓練) ・部活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練や交通マナーなど登下校の安全を含め、安心安全な学校生活のあり方について指導し、生徒自らの安全意識を高める。(大宮子ども園との合同避難訓練を実施) ・異年齢集団で共通の興味関心や目的意識を持ち、活動することの楽しさや喜びを体得させるため、日々の部活動指導を大切にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中連携活動では、園児との合同避難訓練(津波想定)を5年間実施し安全意識の高揚や豊かな心の育成に努め、生徒の96%、また、部活動体験では93%の生徒が肯定的評価をしている。 ○部活動は、「目標に向かって協力し楽しい」と答える生徒が、27年度72%、28年度88%、29年度80%と、達成感や充実感に安定がみられる。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・目的意識を高める指導の充実 ・学力の定着と向上 ・3年間を見通した系統的、計画的な指導の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験学習や地域の人材を生かした講話学習を実施する。 ・進路情報の収集と進路資料の活用を行う。 ・放課後の学習会と家庭学習の定着を図る。 ・計画的な二者面談、三者面談を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的に外部講師を招聘し、キャリア教育の視点から講話学習が実施でき、生徒達の生き方を考えさせるよい機会になった。 ○学力補充の時間設定や家庭学習の充実に向け、進路指導部・学習指導部・学年団と連携して取り組めた。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒の実態把握 ・一人ひとりの生徒の教育的ニーズに応じた指導の展開 ・特別支援教育についての理解と認識の深化 ・保護者及び関係機関との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターを活用し、学年団や各担任との連携を強化する。 ・個別の指導計画や教育支援計画に加筆する。また、定期的な教科部会とアセスメントを活用し、共通理解を図り、個に応じた指導にあたる。 ・交流学級との連携や取り組みを積極的に実施する。 ・合理的配慮に関する教育内容や支援体制を確立する。 ・家庭訪問や面談を通して保護者との共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コーディネーターを中心に組織的に取り組めた。また、研修会や定期的な教科部会を開催し、一人ひとりの生徒の実態や課題を共有し指導が展開できた。 ○保護者と連携し、一人ひとりの教育的ニーズを明確にして共通理解を図りながら指導ができた。 ○交流学級でも安心した学校生活ができています。 △外部関係機関との連携を強め、支援の在り方について共通理解を図る必要がある。
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> 1 組織的な学校運営を図り、各分掌や分掌間をより機能化させる。 2 教育活動全体を通し、言語活動を充実させ、質の高い学力の育成に向けた研修と授業改善に取り組む。 3 不登校生徒の未然防止と早期解決に向け、学校・家庭・外部関係機関との連携を強化し、組織的な支援体制を構築する。 4 小中一貫教育の手法を生かし、授業力・学級経営力・生徒指導力の向上を目指す。 		

平成29年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立網野中学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進</p> <p>1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。</p> <p>2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。</p> <p>3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。</p> <p>4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。</p>		<p>○学力充実の前提となる授業規律が確立でき、落ち着いた雰囲気の中で授業を進めることができた。</p> <p>○「考えを交流する」場面でのペア学習・グループ学習を意識した授業が増えた。</p> <p>○授業改善に向け、教員の意識が向上してきた。</p> <p>○教職員の先を見通した指導が随所ででき、大きな生徒間トラブルは生じなかった。</p> <p>△網野学園全体で家庭学習充実の取組を行い、取組期間中は成果があったが、まだ定着はしていない。</p> <p>△不登校の未然防止や改善の取組を進めてきたが、家庭の状況の困難さ等もあり、解消できていない。</p>		<p>本校合言葉「本気で本物の追求！」を進める。</p> <p>1 確かな学力の向上</p> <p>(1) 授業規律の確立</p> <p>(2) 学びスタイルの確立</p> <p>(3) 家庭学習の充実</p> <p>(4) 補充学習の充実</p> <p>2 豊かな人間性・社会性の育成</p> <p>(1) 生徒との信頼関係の構築</p> <p>(2) ボランティア活動の充実</p> <p>3 体力の向上</p> <p>(1) 積極的・意欲的な部活動への参加</p> <p>(2) 新体力テストの結果を踏まえた継続的指導</p>	
評価項目	重点目標	具 体 的 方 策			
<p>教育課程 学習指導</p>	<p>・授業規律の確立</p> <p>・基礎基本の徹底</p> <p>・活用する力の育成</p> <p>・家庭学習の充実</p> <p>・補充学習の充実</p>	<p>・めあての提示により、目的意識を持った授業態度を育成する。</p> <p>・共通指導事項「これだけは！」を意識した授業づくりを行う。</p> <p>・授業と関連づけた家庭学習を進める。</p> <p>・週末課題の提示と「これだけは！」家庭編を実践するよりに指導する。</p> <p>・中1ふりスタ・中2学力アップ・地域未来塾の活用</p>			
<p>生徒指導</p>	<p>・生徒との信頼関係の構築</p> <p>・規範意識の醸成</p> <p>・不登校の改善と未然防止</p> <p>・望ましい人間関係の育成と集団の質の向上</p> <p>・組織的指導力の向上</p> <p>・いじめなどの人権侵害を未然防止</p>	<p>・生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、指導のすきまを作らないようにする。(業間指導の継続)</p> <p>・生徒の信頼関係を構築するため、アンケートや教育相談など様々な手法を用いて、助言し、相談にのれる体制を築く。</p> <p>・いじめや嫌がらせ等については、教師がサインを見逃さず、初期の段階で指導し、未然防止に努める。</p> <p>・学校行事で生徒の信頼関係を向上させる取組を行う。</p>			
<p>本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として</p>					
<p>成果と課題(自己評価)</p> <p>○開校3年目を生徒及び教職員が意識し、本物の校風を確立するという意気込みで教育実践に取り組み、授業への取組の姿勢がよくなってきた。</p> <p>○学園で大切にしている重点目標を授業に取り入れ、めあてを意識し、考えさせる授業づくりが進んできた。</p> <p>○学習課題をやり切らせるといふ全体での確認で取り組めた。</p> <p>△家庭学習をより充実させ、授業と関連させたい。</p> <p>○「本気で本物の追求！」を全校で掲げ取り組むことにより、生徒の生活への目的意識が高まり、自分のできることに深く考える方が深化してきた。</p> <p>○「生徒のいるところには教師がいる」を全校で実践し、生徒を見守ることで、安心した環境をつくれた。</p> <p>○生徒の変化やサインを見逃さず、取組ができた。</p> <p>△不登校生徒の個々の課題に対して、ケース会議や教育相談部会等で話し合い取り組んだが課題が大きい。</p>					

健康(体育)・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・体力の向上 ・安全に対する意識の高揚 ・健康教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テスト結果の分析を行い、必要な体力をつけさせる指導を充実させる。 ・積極的・意欲的な部活動への参加を促す、丁寧な指導を行う。 ・交通安全教室・避難訓練等の実施 ・日々の登下校時の安全指導の実施 ・定期的な施設・設備の安全点検を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○体育の授業で「網中体操」を毎回取り組み、体力・柔軟性及び体幹を鍛えることができている。 ○部活動を充実させ、意欲的に生徒が取り組み始めるよう指導を行うことができた。(例：目標の年間掲示等) ○登下校の安全指導を全教員が協働して実施できた。 ○学校の安全点検を学期1回全教員で実施し、修繕等に活かすことができた。 △小学校との合同避難訓練を行事調整ができず、実施できなかった。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導充実のための校内研修の充実 ・生徒の個々の課題を正確に把握し、適切な個別指導計画に沿った指導の充実 ・障害に対する理解教育の推進及び保護者への啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者差別解消法に対応した体制や環境の整備 ・特別支援教育コーディネーターを中心とした校内指導委員会の機能化 ・特別支援学級における指導体制の充実 ・通級指導教室における個に応じた指導の充実 ・個別の指導計画と教育支援計画の見直しと活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○障害の理解教育を行うことができた。(本校で市特支学級体育交流会を機会として全校実施) ○個々の課題に対応した通級指導を実践することができた。 ○特別支援学級の生徒への指導を全校体制で実施できた。 ○障害の理解について研修を行うことができた。 △個別の指導計画及び教育支援計画に基づいた指導を全校体制で実践する点は、課題が残る。
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼される学校づくり ・学校公開及び学校からの情報発信による保護者・地域への理解の促進(小中一貫教育の推進内容を広報) 	<ul style="list-style-type: none"> ・区長会、民生児童委員協議会等への積極的な啓発 ・地域や保護者に対する誠実・迅速・丁寧な対応 ・ボランティア活動による地域への貢献 ・地域の教育力の活用(伝統文化体験、職場体験、外部講師の招聘等) ・学校だよりの全戸回覧やHP等による情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ○PTAや教育応援会をはじめ、多くの団体等への啓発や取組紹介などを積極的に進めることができた。 ○伝統文化体験・職場体験学習など、地域の方々に協力していただき、多くのことを学ぶことができた。 ○授業参観や行事参観に多くの方に参加していただくことができた、生徒の頑張る姿を見ていただけた。
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成30年度府中研数学研究会を本校で実施することをチャンスにして、新学習指導要領の趣旨でもある「主体的・対話的で深い学び」となる授業づくり・授業改善を研究し推進する。 2 小中一貫教育の取組の中で、連携して「家庭学習の習慣化」について取組を進め、授業と家庭学習の連動をより充実させる。 3 不登校生徒の解決と未然防止に努めるため、より関係機関との連携を深め、組織的・継続的に取組を行う。 4 生き生きとした生徒の活動を創造するため、生徒指導と特別活動の連携により、自発的な活動を実践させる。 		

平成29年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立丹後中学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>開校4年目となる教育活動を充実させ、保護者・地域から信頼される学校経営を行う。生徒が「本気で本物に挑戦する」ための教育環境をつくり、自分の可能性に果敢に挑み力を伸ばすことに専念させる。</p>		<p>昨年度は、「本気で本物に挑戦する」を合言葉にして、落ち着いた学校生活に取り組み、学習、部活動、様々な行事・取組で力を発揮した。校風も落ち着き、しっかりしたものと なって きた。さらに、自己肯定感や自己有用感を高め、学校生活に積極的に取り組む力をつけさせたい。</p>		<p>①開校4年目となり、教育活動の一つ一つを確認・検証しながら進めていき、生徒が輝く校風を築く。 ②小中一貫教育完全実施2年目であり、全教職員がその目標や目的を共有し、丹後学園の目指す子ども像に向けて、具体的な取組を推進する。</p>	
評価項目	重点目標	具体的方策		成果と課題(自己評価)	
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・数学の指導の研究を重点教科として進める。 ・言語活動を取り入れ、「ことばの力」の育成を図る。 ・基礎学力の定着及び活用する力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育の重点教科として「算数・数学」の指導について研究し、系統性のある一貫した授業づくりを研究する。 ・全ての教科に言語活動を取り入れるようにし、「ことばの力」を育成するための授業形態を工夫改善し実践する。 ・ねらいを持ったドリルや家庭学習課題を継続し行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ○「算数・数学」の系統表の作成等、研究成果を授業づくりに活かすことができた。 ○授業のパッケージ化について、どの授業でも意識して取り組み授業づくりにつなげた。 ○来年度から移行期間となる新学習指導要領についての研修を学園として行うことができ理解を深めた。 △家庭学習の定着をさらに進めていく。 	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・丹後小中一貫教育でめざす子ども像の実現に向けて取組を進める。 ・安心できる仲間関係を築かせる。 ・SNS等の使用について、実態を把握して指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中のみならず業間指導を丁寧に行い、生徒の状況を把握すると同時に、生徒との信頼関係づくりを進める。 ・いじめ防止対策委員会を機能させ、いじめ調査の結果を基に組織的対応・指導に努める。 ・SNSや薬物等に係る「非行防止教室」を計画的に実施し、自他を大切にすることを指導と正しく判断し行動する力を育てる。 		<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導の三機能(自己存在感・共感的な人間関係・自己決定)を取り入れた。 ○生徒指導部会を時間内に設定し、指導の方向性を明らかにして教職員全員で指導にあたることができた。 ○いじめアンケート等を通して、状況把握とその指導を丁寧に行い、未然防止、早期対応につなげた。 	
健康(体育)・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・体を鍛えることで、忍耐力などの心の強さも育てる。 また、その力を学習にもつなげる。 ・安全な生活の仕方について、登下校及び学校生活の両面から指導を行う。 ・自分や周りの人の命を守る安全教育を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の指導を学校生活の向上につなげ、体育系・文化系部活動がかわらず、豊かな心の育成を図る。 ・丹後小中一貫校PTA並びに本校PTAとの連携を強め、あいさつ運動や登下校指導を実施する。 ・生徒の安全安心な学校生活のために、常に危機意識を持ち指導にあたる。 ・ねらいをしっかりと持たせた避難訓練を実施する。 		<ul style="list-style-type: none"> ○豊かな心と強い心を育てるために、どの部活動も生徒の心に響く指導に努めることができた。 ○大会や試合、発表や作品の出版等、日々の頑張りを発表する場として、また、礼儀やマナーを学ばせる場として部活動の指導にあたることができた。 △さらに、生徒の安全安心な学校生活のために、危機意識を持って指導にあたる。 ○丹後子ども園との合同品訓練は今後も継続し、自己肯定感を育む学習につなげる。 	

本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域への学校公開や授業公開を計画的に行い、丹後中学校開校4年目の教育を理解していただく機会とする。 ・学校だよりの地域への回覧とともに、学校ホームページを最大限活用して生徒の様子や学園・学校の教育活動を発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学式等の儀式や合唱祭・学習発表会・部活動公開等、様々な教育活動の場面を多くの方に見ていただく機会を計画する。保護者の方だけでなく、地域の皆さんや民生委員様・学校評議員様など、多くの方に見ていただき、ご意見や感想を今後の学校経営に活かす。 ・地域の取組に積極的に参加し、中学校の状況を伝えると同時に丹後小中一貫教育を広く発信していく。 ・足を運びやすい地域に開かれた学校づくりに努める。そのためにも、地域学校協働本部等を有効に活用し、支援ボランティアの方々の支援を積極的に活用する。 	<p>○学校や学園の行事や取組は広く案内をし、学校での生徒の頑張りを見ていただくとともに、励ましていただくような環境づくりに努めることができた。</p> <p>○支援をいただくだけではなく、公民館事業や地域の行事や地域で発表する場には積極的に生徒が地域に出て、地域の中で地域の子どもとしてできる場を今後も作っていく。</p> <p>△学校支援ボランティアの方々の支援を今後も継続して行っていただけのように、学校に足を運びやすい学園・学校づくりに努める。</p>
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のそれぞれの特性について教職員間で共有し、特性にあった支援を全教育活動を通じて行う。 ・関係機関との連携を丁寧に行い、指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画・支援計画に沿って、個々の課題に応じた指導・支援を丹後小中一貫教育を通して行う。また、通常学級に在籍する特別に支援を必要とする生徒について、適切な支援を実施する。 ・校内研や研修会などを通して指導の充実を図り、適切な支援により生徒の力の伸長を目指す。 	<p>○個別の指導計画・支援計画に沿って、個々の課題に応じた指導や支援を行うことができた。通常学級に在籍する特別に支援を必要とする生徒についても、共通理解のもと支援を行うことができた。</p> <p>△さらに、支援の充実のための環境づくりと指導の充実が必要である。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・丹後学園小中一貫教育をさらに推進させ、学校改善の一つの手法として活かしていく。特に、本校の授業改善に活かしていく。 ・学習と部活動の両輪で、確かな学力と豊かな心の育成のために指導力の向上に努める。 ・地域に開かれた学校づくりをさらに進める。 ・移行期間となる新学習指導要領にもとづいた教育課程づくりを進める。 		

平成29年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立弥栄中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>学力の定着と豊かな心の育成をめざし、生徒が元気に登校できるように学校生活を安定させる指導を展開し、希望の進路を実現する。</p>		<p>身につけた基本的な生活習慣を学校生活に生かすことができたが、自ら適切な判断を行い、主体的な行動ができるように指導を進めていく必要がある。</p>		<p>自ら学習に励む習慣と仲間と共に中学校生活を送ることができ、多面的な考え方ができ、表現する力をつける。 ・異年齢活動を積極的に取組み、自信をつける。</p>	
評価項目	重点目標	具体的方策		成果と課題(自己評価)	
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識・技能の定着を図り、学び得たことをもとに活用できる力をも身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい人間関係をめざした学級経営を推進し、日々の授業がわかった、できたと生徒が実感する指導を展開する。(わかりやすい説明の工夫) ・めざす子ども像「知識と技を磨き、活用する子」を意識し、諸テストの結果を分析し授業改善を図る。 ・家庭学習の習慣を身につけさせるため、課題の克服につながる問題を提示し、適切な指導を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ○小中で合同授業研修や情報交流を行い、指導方法を学び合い、中学校卒業時を意識した指導を行う大切さが確認できた。 △基礎基本を身につけた後、発展的な問題や記述問題が解ける力をつける必要がある。学んだことを家庭で復習し、自力解決させる指導の工夫と弱点補強する方法を定着させることである。 	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体でいじめ、不登校の未然防止、丁寧な対応を組織的に継続する。 ・自己有用感を実感させ、未来を拓くことができる自立の基盤をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートや個別面談を計画し、実態把握のもとに適切な対応を迅速且つ丁寧に行う。(当該学年だけの問題としてとらえず、学校全体の問題として取組む) ・自主的、自治的活動をとおして自立の基盤をつくる。 ・道徳、人権教育を核として思いやりの心を育む。 ・生徒指導部と教育相談部の連携を強化する。 		<ul style="list-style-type: none"> ○生徒との面談や学年集会を適宜設定することで、問題行動の未然防止につながり、生徒との関係づくりができた。また、日々の係り活動等の任務を全うする習慣が身についた。 △不登校について、全体で考えさせ改善するところまでには至らなかった。 	
健康(体育)・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・心身を鍛え、何事もやり抜く生徒の育成をめざす。 ・部活動の活性化を図る。 ・安全安心な学校生活を営むことができるよう保護者、地域と連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい食生活の習慣をつける給食指導を行う ・目標を設定し達成するための練習を継続させていく。(体育、部活動、学校行事等) ・危機意識向上と危機回避能力を身につける安全教育や防災教育を行う。(避難訓練、交通教室、薬物指導等) ・日々の登下校の指導、保護者、地域と連携し交通指導、挨拶運動を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ○残食も少なく、健康増進につながった。日々の朝練習も参加する生徒が多く、基本的な生活習慣が身についた。 △不注意により接触事故や怪我があった。危機意識を持たせる指導が要る。継続的に注意喚起させるとともに、学んだことを日常生活に生かすことである。 	

本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

(A) 危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力保障を行うために、教育環境を整え、安心安全を第一に教育活動を行う。 ・報告、連絡、相談ができる学校体制を確立し、保護者、地域からの信頼関係を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の向上を図るため、生徒の学校や家庭での生活実態を把握した上で、個別の対応や全体指導により、自他の良さを実感させ、仲間と共に伸びる教育活動を進める。 ・定期的に学校から生徒の活動状況を発信し、保護者、地域社会と連携をし、情報の共有化、問題に対する未然防止を図る。(学校評議員、民生児童委員、弥栄学園教育支援協議会との連携、学校だより、HP等の情報発信) 	<p>○仲間とともに学習したことを表現することや真面目に取り組むことはできた。小中での連携した交流活動は、自他の良さを実感する機会となった。また、落ち着いた教育環境を整えるために、生徒の人間関係や活動の実態を日常的に交流し、具体的な手立てを講じて対応できた。</p> <p>△学校の様子をHPや各種たよりによって、情報発信を行ったが、保護者、地域の方へ浸透するまでには至っていない。</p>
(B) 研修(資質向上の取組)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育公務員として服従規律を高め、指導者としての責任と自覚をもって教育実践を積み上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学びを身につけるために、子どもに深い学びとなる授業をめざした小中合同授業研究会を開催し、指導力の向上をめざす。(じっくり考え、他者と協働し、視野を広げ、まとめた結果を表現できる力をつける) ・「教職員人権研修ハンドブック」や「人権教育を推進するために」等を有効活用した研修を行い、人権教育について確認し人権意識を高め、教育活動に生かす。 	<p>○教師の指導力向上を目指した、学園や校内での授業研究会によって補うべき点が明らかになった</p> <p>△生徒の心情や生活に視点をあてた指導する際には、指導者として人権感覚を磨く機会が少なく、計画的に設定することができなかつた。専門性、社会性、人間性を磨く研修が要る。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>1 習得した知識や技術を生かす。(教科学習、部活動等で「わかる」ことから、じっくり考え、「できる」ようにさせる、そして、生きてはたらくものとなるようにする。)</p> <p>(1) 仲間と協力したり、競争したり、共に学び合う関係づくりを行う。</p> <p>(2) 学んだことが日常生活に生かすことができるようにする。</p> <p>2 自尊感情の醸成を目指し、学校生活が積極的な活動となるよう指導を展開する。</p> <p>(1) 学校を居心地の良い場とする。</p> <p>(2) 目標の設定をさせ、適切な指導のもと意欲を高める評価を行う。</p> <p>3 弥栄学園の教育目標に向かって、実践を積み上げていく。</p> <p>(1) ふるさとを愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く児童生徒の育成をめざす。</p> <p>(2) 校訓「真理、正義、高雅、愛郷」を意識させる。</p>		

平成29年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立久美浜中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>○規範意識の醸成を基盤とし、当たり前のことが当たり前にできる学校、「命」「今」「仲間」を大切にできる学校を目指す。</p> <p>○久美浜学園小中一貫教育の利点を最大限に生かし、教職員間の共通理解を丁寧に図りながら系統的に実践を積み上げる。</p> <p>1 生徒の自尊感情を高め、望ましい人間関係を構築する。</p> <p>2 基礎基本の定着を中心に据えた総合的な学力向上策を共有し、職員みんなで取り組む。</p> <p>◇授業規律の確立</p> <p>◇小中共通の授業構造による授業改善と言語活動の充実</p> <p>3 「久美浜学園学校地域連携推進協議会」や「地域学校協働本部」等、新たな仕組みを機能化させ、久美中教育全体を充実させる。</p>	<p>○新生久美浜中学校で土台づくりの3年を終えた4年目、新たな学校づくりで生徒と教師が協働で取り組み、より良い学校を目指して相互の意識が高まった。</p> <p>○生徒会活動が活性化し、久美中版学力向上策(全校2ページ学習、異年齢教え合い学習)の典型ができた。また、取り組みことで自己肯定感が高まった。</p> <p>○教師間のコミュニケーションを第一とし、生徒指導・教育相談においては、みんなで動いて、組織的に課題解決できるようになった。</p> <p>○教職員や児童生徒、また地域や諸団体の中で、久美浜学園の取組が前向きな評価を得、学校地域連携推進協議会の立ち上げにつながった。</p> <p>△若手教師の授業改善意欲が高まり、個人の実践は進んだが、実践交流が不十分で、広げることができなかった。</p> <p>△帰宅後、SNS等に多くの時間を費やし、家庭学習の時間確保ができていない生徒の割合が高い。各種テストにおいて全国・府平均を大きく下回っている。</p> <p>△特別な支援を必要とする生徒について、校内教育支援委員会を機能させた組織的な指導ができていない。</p>	<p>【3つのキーワード】 「人の話を聴く」「考える」「表現する」</p> <p><久美浜学園> 重点課題：学力向上 【授業規律の確立、言語活動の充実、家庭学習時間の確保】</p> <p>○法やルールに関する教育の推進 ○人権教育・道徳教育・特別活動の充実</p> <p>1 課題や具体的方策の明確化と進行管理 (1) 課題 ア 規範意識の醸成 イ 学力向上 ウ 不登校生徒の解消と未然防止 (2) 指導の重点 ア 徹底した実態把握と共通理解、組織的な課題解決 イ 生徒指導の3機能を生かした授業改善 2 開かれた学校づくり (1) 地域の特性を生かした総合的な学習の時間の充実 (2) 地域や保護者への情報発信と地域学校協働活動の推進</p>
<p>評価項目</p> <p>教育課程 学習指導</p> <p>1 生徒や地域の特性を生かした教育課程の編成 2 授業実践力の向上 3 言語活動の充実 4 家庭学習時間の確保</p>	<p>具体的方策</p> <p>◇丹後学の充実：1年地域調べ(京丹後・久美浜)、2年立志式、3年福祉体験(サロン活動、介護体験、提言) ◇校内授業研(4回)：生徒指導の3機能を生かした授業、言語活動工夫 ◇公開授業(6回)：教科、道徳、法やルールに関する教育等 ◇小グループ(異年齢も含む)を活用した言語活動の充実 ◇久美中ドリルの工夫・改善 ◇中1ふりスタ・中2学力アップ講座の工夫、地域未来塾の充実 ◇生徒会の取組の充実(2ページ学習、教え合い学習)</p>	<p>成果と課題(自己評価)</p> <p>○2年で「立志式」を実施し、学級・学年で発表会も行った。自分の生き方を見つめ考える良い機会となった。</p> <p>○毎学期に行った異年齢による教え合い学習等の充実により生徒の自己有用感も高まった。</p> <p>○地域未来塾ではタブレットも活用しながら指導し、そのことが充実した取組に繋がった。</p> <p>○昨年度以上(4回)の校内授業研をもち、言語活動の充実を柱とした授業改善を図った。</p> <p>△家庭学習の充実に更に力を入れる。</p>

本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	生徒指導	<p>1 人権教育・道徳教育、法やルールに関する教育の推進と規範意識の醸成</p> <p>2 いじめの未然防止と解消</p> <p>3 自己肯定感の高揚、共感的な人間関係の育成</p> <p>4 不登校（不登校傾向生徒）の解消と未然防止</p> <p>5 関係諸団体との連携強化</p>	<p>◇生徒とのふれ合い（業間も含む）、話しこみ</p> <p>◇組織的対応：みんなで動く、複数指導</p> <p>◇徹底した事前指導：学校行事前、生徒会活動前</p> <p>◇「はあとほっとタイム」：学期1回以上</p> <p>◇携帯教室（情報機器の安全な取扱い） 久美浜学園小4児童、中学生、PTA</p> <p>◇主要部会の定例化：生徒指導（いじめ対策）、教育相談、特別活動</p> <p>◇「気づき」「今週の気になる生徒」の発行</p> <p>◇麦わら、病院、SSWとの連携</p>	<p>○関係部会（生徒指導、教育相談）を定例化し、職員全体で情報共有するなかで、複数体制で個別の対応を行う等、状況に応じた組織的な動きがとられた。</p> <p>○全校での「はあとほっとタイム」を広げ、学年や学級でも取り入れることで生徒の自己肯定感を更に高めることができた。</p> <p>○「情報機器の安全な取扱い」に特化した授業・講演会を小4児童、中学生、PTA対象にも行った。危険性への認識が更に深まり、トラブルが減少している。</p> <p>△不登校生徒の解消に課題が残る。</p>
健康（体育）・安全	<p>1 部活動の充実と達成感の享受</p> <p>2 緊急時対応訓練の充実</p> <p>3 食育指導の充実</p> <p>4 交通安全指導の徹底と健康教育の充実</p>	<p>◇緊急時対応訓練 6月：火災、11月：不審者、3月：地震</p> <p>◇公開授業：食育指導と保健指導との連携</p> <p>◇自転車（安全）指導、禁煙教育、生命のがん教育、薬物指導、性に関する教育</p>	<p>○部活動については生徒達の意欲も高く、大変充実しており、そのことが好成績にも繋がった。</p> <p>○夏みかんの日等、命に係る指導を計画的に実施するなかで、生徒の命や安全に対する認識が深まった。</p> <p>○学期に1回（7月：火災、12月：不審者、3月：地震）緊急対応訓練を実施し、基本対応への周知を図った。</p>	
特別支援教育	<p>1 校内体制の充実</p> <p>2 障害のある生徒に対する個に応じた指導の充実</p>	<p>◇コーディネーターによる校内教育支援委員会の機能化</p> <p>◇特別支援教室構想に基づく支援</p> <p>◇実態把握：アセスメント票、個別の指導計画・支援計画</p> <p>◇個別データの蓄積：発達障害をもつ生徒、有効な手立て</p> <p>◇担任並びに担当者と本人・保護者との丁寧な懇談</p> <p>◇連携強化：保護者、教師間（教科担当等）、関係諸機関（病院等）</p>	<p>○コーディネーターが中心となり、校内教育支援委員会を定期的にもつなかで、組織の機能化が図れた。</p> <p>○関係諸機関との連携を図るとともに、担任及び教科担当者と本人・保護者との話し合いを丁寧に行なった。結果、支援が必要な生徒への授業等での合理的配慮の具体化が図れた。</p> <p>△多様化する保護者等からの要望に対して、関係諸機関との連携を更に強化し、対応する。</p>	
開かれた学校づくり	<p>1 信頼される学校づくり</p> <p>2 双方向の情報交流を活かした学校改善</p>	<p>◇保護者や地域に対する誠実・迅速・丁寧な対応</p> <p>◇たより、HP等による情報発信（学校・久美浜学園）</p> <p>◇学校地域連携推進協議会の機能化と地域学校協働活動の推進</p>	<p>○HPやたより等によるタイムリーな情報発信（学校・久美浜学園）を行うことができた。</p> <p>○保護者、地域に対しての誠実・迅速・丁寧な対応により、一定の信頼を得られた。</p>	
次年度に向けた改善の方向性	<p>◎久美浜学園小中一貫教育3年目を迎え、より一層系統的、組織的に実践を積み上げる。</p> <p>(1) 授業改善（基礎・基本の習得・定着と言語活動の充実）</p> <p>(2) 望ましい人間関係の構築と自尊感情・自己有用感の高揚</p> <p>(3) 不登校（傾向）生徒の解消</p>			

